

平成 28 年度「自己評価報告書」

社会福祉法人愛護会
金ヶ崎保育園

I 保育目標

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| ●健康で明るい子ども | ●なぜだろうと考え、物事に疑問をもつ子ども |
| ●自分のことは自分でできる子ども | ●他人のことを考え、協力できる子ども |
| ●自然に親しみ、愛することのできる子ども | ●豊かな心を持つ子ども |
| ●人の話をしっかり聞き、自分の意思を言葉で話せる子ども | |

II 施設運営の重点課題

- | | | |
|------------|----------|---------------------|
| ●保育内容の充実 | ●風の子農園運営 | ●地域社会や社会資源の積極的活用 |
| ●障がい児保育の充実 | ●食育指導の充実 | ●子育て支援活動の推進と地域福祉の向上 |
| ●郷土文化伝承の促進 | ●職員の資質向上 | |

評価の基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

III 評価項目と取り組み状況

自己評価項目			評価	取り組み状況
保育内容の充実	たくましい子を生み育てるために、乳幼児の健全な発達をめざして保育内容の充実を図る	B		- 一人ひとりの家庭環境と子どもの発達を理解し保育を展開した。 - 年長児が興味関心を持った「虫」をテーマとして、それぞれの年齢発達に応じた活動を年間通して、園全体で取り組むことができた。
風の子農園運営	地域の方々の協力を得ながら働くことの喜びや、食べ物に対する感謝の気持ちを育てる	B		- 地域の方との畑づくり(苗植え・種まき・収穫)を通して、働くことの喜びを持つことができた。 - 風の子農園で育てた野菜を給食等で利用し、またクッキングを通して、食べ物への関心や感謝の気持ちを育てることができた。
地域社会や社会資源の積極的活用	地域力を保育に活かし、子ども達が豊かな生活体験、感動体験ができるように展開し「地域と共に」取り組んでいく	B		- 地域の方、保護者、卒園児(大人・小中学生)の協力を得ながら様々な感動体験をすることができた。 - 地域の行事に積極的に参加し、保育園をより知ってもらうことで、理解協力を得ることができた。

	障がい児保育の充実	家庭、専門機関、関係機関との連携を密にしながら保護者との相互理解を図り適切な環境の下で保育の充実を図る	B	・ 日常の保育、子どもの姿について保護者と話し合いを持ちながら適切な援助ができるように進めた。 ・ 家庭と専門機関、関係機関をつなげ特に年長児は、就学に向けての相談や、保護者が支援学級の見学ができるよう援助を行った。
	食育指導の充実	「食を営む力」を育むため、保護者、家庭、地域との連携を深め「食べる」ことや「いのち」への関心を高め、子どもの健やかな心と健全育成を促していく	B	・ 「お店やごっこ・作品展示会」等で食育に関する展示や、行事食の写真、レシピ等の配布、おやつを試食を通し、食事の大切さを保護者や地域に発信した。 ・ アレルギー児への対応は、かかりつけ医師の指示書、保護者からの依頼書のもと適切に行った。 ・ 金ケ崎町管理栄養士との連携を図りながら、乳児を持つ地域の親を対象に離乳食教室を実施した。
	子育て支援活動の推進と地域福祉の向上	保護者や地域ニーズに応えるサービス提供組織として、保護者や地域の多様なニーズに対応し、乳幼児の発達を尊び、家庭との連携を密にする保育を展開する	B	・ 休日保育を行い、保護者のニーズに対応した。 ・ 園開放を行い、地域における子育て支援活動の推進に努めた。 ・ 金ケ崎町子育て支援センターと交流した。 ・ 金ケ崎町1歳半健診のサポートを行った。
	郷土文化伝承の推進	郷土文化伝承活動「子ども鹿踊り」を保育に取り入れ、地域の子育て文化を地域に発信していく	A	・ 鹿踊り保存会の指導、協力のもと、年長児が「こども鹿踊り」に取り組み、地域の行事や、運動会等で発表し、郷土に伝わるよりよい文化を地域に発信することができた。
	職員の資質の向上	職員一人ひとりが、たくましい子を生み育てる保育の実践と研究を進める	B	・ 園内研修、部会研修、外部の研修に参加した。特に保育事業部会4園の研究テーマである「子どもの発達と身体リズム運動遊び」は全職員で取り組んだ。 ・ 4園の5歳児が「身体リズム運動遊び」の交流会を行った。